

行政視察報告書

委員会名（会派名）		大河津分水大改造事業促進特別委員会	報告者	稲村隆行、齋藤和也
視察日程		令和7年7月29日～30日		
調査事項 及び 視察地		①国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所（東京都北区）		
		荒川下流河川事務所における治水事業の取り組みについて		
		②国土交通省 国土技術政策総合研究所（茨城県つくば市）		
		「大河津分水路模型実験」について		
参加議員 （委員）		田澤 信行、稲村 隆行、渡邊 雄三、土田 昇、齋藤 信行、小林 秋光、 近藤 隆行、佐野 大輔、齋藤 和也		
①	【調査目的・内容】			
	荒川下流河川事務所における治水事業の取り組み、災害リスクへの対応状況を視察し、燕市政に活かす。			
	【所感】			
	●事業背景等			
	・1910年に発生した大水害を機に、約20年かけて荒川放水路を整備。事業費は現在の貨幣価値で約2,300億円。			
	・戦後復興に伴い、地方から多くの人々が東京圏に流入。人口増加に伴い、生活用水・工業用水の使用のため、大量の地下水が汲み上げられたことで地盤沈下が発生。その後、利根川と入間川の水を荒川に引き入れ、その水を利用することで地盤沈下は止まった。			
	・荒川放水路を整備後、堤防決壊はなし。ただし、荒川下流部は地盤が低いため大雨が降るとなかなか水位が下がらず、ポンプで排出している。			
	●視察内容			
	・災害対策支援船あらかわ号に乗船し、荒川を移動。あらかわ号は災害発生時に災害対策本部として運用可能な機能を有している。			
	・上流に位置する、さいたま市、川越市、上尾市にまたがる箇所に第二調節池、第三調節池を整備中。令和12年完成予定（洪水調節容量約5,100万㎡）一部区間は令和8年から供用開始予定。これにより水位の上昇が抑制され、治水安全性がさらに向上する。			
・荒川下流部には高規格堤防が整備されている。高規格堤防とは、堤防高さの30倍の幅を盛土し、その上に住宅や商業施設を建設して、地域ごと堤防とする取り組み。洪水や液状化に強く、大雨で越水しても堤防が決壊しないように、水の流れを緩やかにする勾配が取られている。				
●現状の課題と対応				
京成本線荒川橋梁（昭和6年架設）が地盤沈下により周辺堤防よりも低い状態となっ				

ており、増水時にはここから決壊する可能性がある。対策として、京成本線架替事業を実施中（事業費約730億円）令和19年完成予定。それまでは、水防管理団体による越水防止の止水板を設置することで対応するため、毎年訓練を実施している。

●所感

近年、異常気象とも言える大雨の発生が増加し、河川の氾濫リスクが高まっており、市民の生命と財産を守る治水事業の重要性は一層増している。大河津分水大改造事業もまた極めて重要な事業であり、地域の声を適切に事業者へ届けつつ、計画が円滑に進むよう、委員会として主体的に取り組んでいきたいと考える。

【調査目的・内容】

・大河津分水路模型実験の現状について

【所感】

燕市議会の「大河津分水大改造事業促進特別委員会」として、茨城県つくば市に所在する国土交通省国土技術政策総合研究所を訪問し、「大河津分水路模型実験」の視察を行いました。

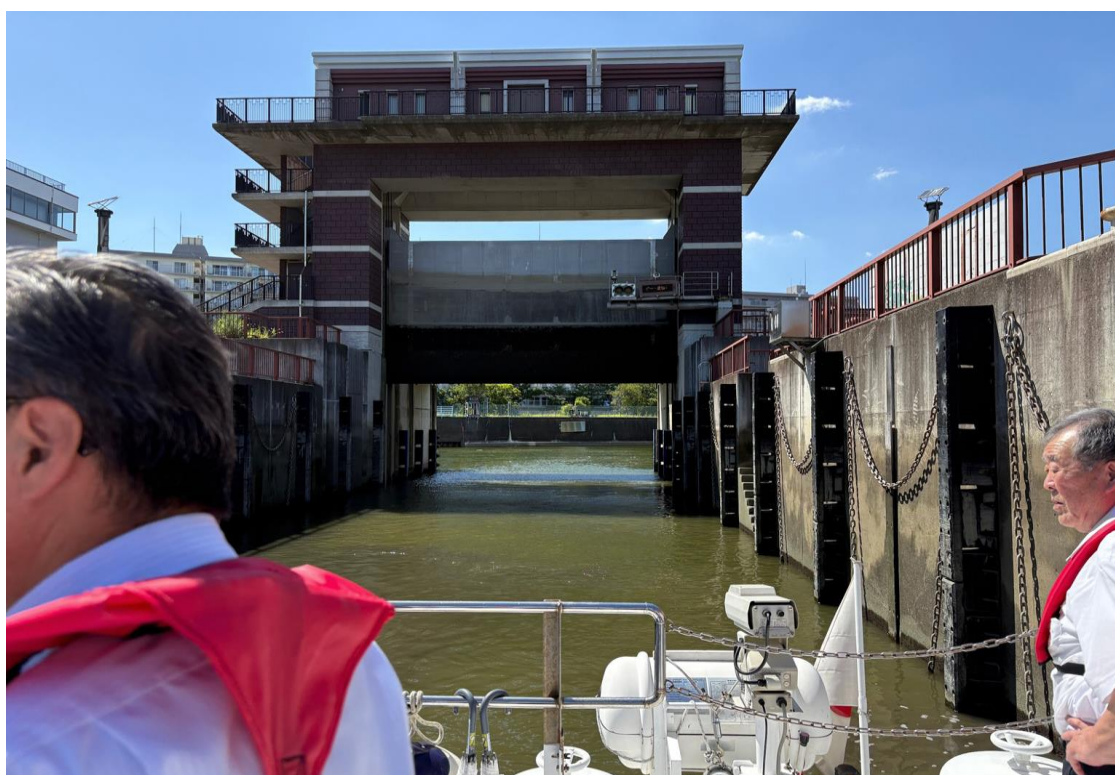
今回の視察では、1/50スケールで精密に再現された大河津分水路の実験模型を用いた水理実験の様子を確認しました。この模型は幅約4メートル、堤防や橋梁、床固工といった構造物が忠実に再現されており、信濃川の増水時や洪水時における水の流れの変化、構造物への影響、流下能力の検証など、現実 に即した実験が行われていました。「令和の大改修」とも称される本事業は、信濃川流域の広範な治水安全度の向上を目的とした国家的なインフラ整備であり、燕市を含む地域にとって極めて重要な意義を持っています。視察を通じて、技術的・科学的根拠に基づいて改修計画が策定・実行されていることを目の当たりにし、また氾濫した際のシミュレーションを見せていただき、流域の住民の生命と財産を守るという使命を背負う我々の責務の重さを改めて痛感しました。

また、研究所の職員の皆様からは、最新の技術的知見や、長期にわたる計画の背景にある課題と展望について丁寧なご説明をいただきました。今後も市議会全体で本事業の進捗状況を注視し、必要な支援や提言を行うとともに、市民の皆様に対して丁寧な情報提供と説明責任があると痛感いたしました。

②

【視察の様子】

災害対策支援船 あらかわ号



大河津分水路模型

